

西区地域部会 アンケート結果

① 【衛生面やサービス提供等で特に困ったこと】

I. 障害福祉関係

【衛生面やサービス提供等で特に困ったこと】

- ・換気の問題
- ・感染拡大初期のマスクや消毒液の不足
- ・利用者さんの外出制限
- ・利用者さんでマスク着用ができない方の対応
- ・緊急事態宣言時、居室で過ごす時間が多くなり入居者がストレスを感じていた。
- ・コロナ禍において、通勤での公共交通機関の利用することに不安抱く方が多くいた。
- ・衛生観念の意識の低い方への指導。
- ・こまめな手指消毒により肌荒れが生じる。
- ・メディアにより自身がコロナになっていると思い込んでしまう利用者様が数名いました。
- ・来所者の検温以外の体調把握が難しい。
- ・自宅内にゴミが散乱している室内もある。
- ・アルコール消毒
アパート個室タイプのグループホームで、都度都度のアルコール除菌消毒などきちんとしているか不安でした。
- ・就労支援
入居者さんが就労支援に行く際、職員の人数や車両台数の兼ね合いから、送迎ができないので、マスク着用の公共交通機関で来てくださと言われてしまったことがあること。（入居者さんより）
- ・生活相談室の方のモニタリング
この時期に、万が一対策として、ホーム内には極力人を入れたくない状況ですが実際に顔を見るからわかることもあるため、難しいところです。
- ・買い物支援
不要不急の買い物を控えるため、以前のようにゆっくり自分のペースで選びながら買い物をするという、長時間店舗内の滞在を防ぐため、常に使用している生活用品等は、世話人が買ってくる、ということがあります。ですが、これを続けることになる場合、自立支援の妨げになってくるのではないかと不安もあります。
- ・マスク着用が出来ない人もいる
- ・互いに敏感になり、内輪もめが発生する
- ・感染対策である手洗い・うがいの徹底がなかなか浸透しないこと。
- ・外出の自粛を求めても、意識が低く協力を得にくい利用者がいること。
- ・コロナの流行状況によって昼食提供を見合わせた。
- ・マスクの必要性を理解できない利用者もいた。
- ・冬期間の換気が難しい

- ・ 衛生用品の一部(特にディスポ手袋等)で購入しに難い状況にある。
- ・ 精神障がい者はコロナ禍に過敏で、体調不良等で通所が滞るケースが多くなっている。
- ・ 利用者さん、職員共にストレスが蓄積されて来ている印象が強い。通所時のリスク軽減措置として、通常よりも30分程度遅らせた形態で昨年より取り組んでいるが、お歳をある程度召された方は過敏になり通所の足が遠のいてしまう事がある。
- ・ 近親者や関係者のコロナウイルス感染、もしくは、感染の疑いがある際に、事業所判断を求められる。その判断を行う際に迷うことがある。
- ・ 地域の勉強会や交流会が無く、職員教育でできないことがある。
- ・ 知的障害の利用者が、コロナ感染の恐ろしさの理解が難しい
- ・ マスクを筆頭に必要物品の確保が困難であったこと。
- ・ 少しの発熱や体調不良でも、その対応に右往左往しなければならない事。
- ・ 実際保健所などに相談しても要領を得ない事
- ・ 実際にコロナにかかった時の隔離場所、職員の泊りの体制、食事など
- ・ マスクが高額、足りない等
- ・ 資材の確保
- ・ 活動の中で事業所外での活動がどこまで許容されるかの判断。
- ・ 行動に拘りのある利用者の休みの日の行動について、どこまで介入すべきか。
- ・ 利用者や職員本人や家族に発熱や濃厚接触者との関わりがあった際の判断基準。
- ・ 法人内の就労支援事業所に事業所の清掃を委託しているが、継続していけるか。
- ・ 利用者の方の通勤の交通機関の使用を抑えるため、送迎を行うようにしたが遠方の方の送迎には燃料代の経費がかさむ面とそのためにスタッフの対応が難しい。
- ・ コロナ対応や対策の利用者さんの意識の違いがあるため、施設内では意識を合わせたコロナ対策を呼び掛けたり実践できるが、施設を一步離れたところでの行動に関しては自己判断で行動してしまうことがあることなど、コロナに対しての意識の統一出来ないところ。
- ・ 行事やレクなど、集団で集まって行うことが出来ないこと。
- ・ 製品を販売会、学校祭等で販売していたが、すべて中止になり販路に苦慮している。
- ・ 作業で食品を扱っているのでゴム手袋を使用しているが、ゴム手袋の価格が高騰し経費が厳しくなっている。
- ・ 作業場として飲食店を営んでいるが、お店の売り上げは激減しテナント料の負担が重くなっている。一般の飲食店だと補助金があるが、事業所自体の利用者が減っていないので補助金がもらえない。
- ・ 入所者の面会を感染予防として面会場所を玄関までとしているが、そのことに納得せず恫喝し居室に入ってくる家族。一時帰省中も不要不急の外出をしないようお願いしているが、「私たちは雇らない」と豪語し居酒屋等で飲食をする保護者。
- ・ 外出行事の行き場所に困った。
- ・ 今まで行っていた行事や講習など講師などもこれなくなった。
- ・ 作業メニューが減少した。
- ・ 物品の補給ができにくかったこと。
- ・ 当初、マスクやエタノール等、衛生用品や防護具の入手が困難であった。

- ・PCR検査を受けられない、あるいは受けるまで時間を要するケースがあった。
- ・通所系サービスの利用抑制により、大きな減収となった。（自粛や共同住宅の外出禁止等）
- ・通所利用者で複数のサービス利用をされているケースについて、他事業所の情報がすぐに受けられない場合があった。結果が判明するまでは通所をお休みさせていただいた。
- ・職員の家族がPCR検査を受けたり、濃厚接触者となった場合、結果が判明するまで職員は自宅待機となるため、労働力確保に支障があった。
- ・新規利用者の通所・入所時の見学について、法人（事業所）によっては制限（ストップ）していたため、平常時より対応は遅れた。
- ・自宅訪問時、マスクを着用しない利用者がある（現在は減ってきている）。着用を促し一旦は着用しても、途中で外してしまう利用者がある。
- ・事業所でのモニタリング面談時（夏季）、事業所より利用者の熱中症予防を理由として「マスクを外させています」と、非着用で面談となったことがあった。
- ・事業所訪問時、感染予防対策（検温・手洗い・手指消毒等）が徹底されていない事業所が数カ所あった。
- ・新規来所面談時、予定人数以上の来所者数となる場合があった。
（三密回避のため、面談室利用人数を4名以下に制限している。）
- ・新型コロナ感染が疑われるためPCR検査を受けた利用者が、自宅待機期間中（検査結果連絡待ちの間）に外出しているケースがあった。

Ⅱ. 児童福祉関係

【衛生面やサービス提供等で特に困ったこと】

- ・対象が幼児・児童のため、近距離での関わりが多いこと
- ・レクリエーションが行えない。事業所内が特別広いわけでもないため。
- ・子どもの触った玩具の消毒
- ・密になること
- ・利用児童（障害児）の特性上、マスクを常に着用するのが難しい場合があるが、利用児童の保護者からは何とかマスクをつけさせて欲しいと要望があり困っている。
- ・児童のため、感染予防のマスク着用を拒否することがあった。その他にも、風邪症状のお休み頂く範囲も具体的に決めているが、保護者によって考えにばらつきがあるため統一するのに苦慮する。
- ・お子さん同士ソーシャルディスタンスをとることが難しく、密を完全に避けられず不安な毎日を送っています。
- ・トイレの自立が困難な利用者様との関わり方。（密は避けられない）
- ・咳やくしゃみに敏感な利用者様（不安な気持ちが増す）
- ・調理の自粛
- ・外出の自粛
- ・数人で遊びにくい
- ・感染症対策を講じるも子ども達を預かっている以上限界がる。利用者と職員の行動を制限したり、家族の職場の状況把握など出来る限りのことをしているがコロナによる利用者のお休みが続き、経営が苦しい。屋外活動を無くし、事業所内で支援しているが利用者と保護者から不満が出ている。また、除菌のための

アルコールや学習支援の仕切り（衝立など）経費がかかるばかりで困っている。

- ・ 距離の近いグループ活動や、会話のやり取り、歌などを、他の活動に変更する必要ができたこと。
- ・ おやつ、クッキングなど配慮を要すること。
- ・ 施設内のゾーニングが難しい。
- ・ 子ども（幼児）なので、ソーシャルディスタンスも難しいのと、介助度も高かったり、関わりが近距離のことが多い。
- ・ 幼稚園・保育園の休園に伴い、福祉サービスも休む子が多かった。

Ⅲ. 教育関係

【衛生面やサービス提供等で特に困ったこと】

- ・ 在籍する児童生徒は慢性疾患をかかえており、重症化リスクも高いことから、市内の感染状況、施設が病院と一体となったことを踏まえ、感染予防対策の一環として、外部から施設内への立入りの一切を制限することとしている。これにより、全てが校内のみでの対応となっている。
- ・ コロナ禍のため、8月に八雲より移転してきましたが、地域の関係機関へ挨拶やかかわりをもつことができていない。生徒の活動が制限されているのはもちろんですが、教員自身も生活する上である程度の制限を掛けた中で過ごしているため大変である

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【衛生面やサービス提供等で特に困ったこと】

- ・ 人員の不足

西区地域部会 アンケート結果

② 【課題や問題点】

I. 障害福祉関係

【課題や問題点】

- ・暖房をマックスにして窓はずっと開放しているが、電気の使用量も決まっているため窓の近い席の方がいつも寒い。
- ・作業スペースが 38 m²あり、加湿器 2 台では足りない状況。もう一台購入を検討中
- ・マスクや消毒液の在庫情報（店舗や業者）
- ・病院（特に精神科病院）の情報収集
- ・在宅ワークを実施したところ、一人暮らしの方は寂しく、不安を抱く方が多かった。
- ・在宅ワークでは、自宅の環境もあり集中して作業を行なう場所を確保するのが困難な方もいた。
- ・職員が検査に同行しなければならないため、施設としての負担がかなり増えました。
- ・非接触型の体温計は冬期間には正常に作動しない事や温度が低く算出されることがあった。
- ・事業所内だけでは互いに息が詰まるが、外出もはばかる。
- ・広いスペースが欲しい
- ・利用者の行動の把握、意識変化、余暇活動が限定的になり機会も減る。
- ・今まで行っていた交流が出来ない状況。
- ・3密を避けるため施設外行事を中止にした。
- ・緊急事態宣言時に休所にしたため、身体機能が低下した利用者が見られた
- ・売上低下に伴う、事業経営の困難さに直面。
- ・消毒、検温、マスク着用と一通りの対応はしているのだが、世の中の状況が好転しない限りはいたしかたがないと考えている。
- ・事業所の判断。と言われてしまうと、どうしてもより安全な決定を下さざるを得ない。
- ・マスクを付けないで通所してくる。
- ・入室前の手洗、うがいが、消毒が徹底出来ない
- ・マニュアルの作成などもグループホームという環境ではマンパワーの不足や、環境の設定などで確定したものを作る事が困難なことと、日々のサービスも行いながら新たに色々なものを作り出す時間がない。
- ・他の GH（他の事業所）ではどのように対応しているのか知りたい。
- ・リスク排除を優先すると、どうしても活動を制限する方向になってしまった。
- ・家庭によって意識に差があり、どうしても家庭の事情が優先されることが多かった。
- ・初期においては基準が未確立で、その都度対応しているところがあった。
- ・事業所間で感染予防についての行動基準に差が見られていた。
- ・利用者さんの送迎を、100%網羅することは難しい。
- ・意識の統一を図ること。
- ・行事等が出来ないことで、仕事の合間のみんなの楽しみや息抜きが出来ないこと。
- ・利用者の外出ができないこと。

- ・ 職員の全体会議を3密に留意して行うこと。
- ・ 感染防止のため通所を休んでいる方への支援方法。事業所で行っている作業を自宅で行うことは難しく、だからと言って縫物や計算ドリル等ができない方に何をやってもらった良いか・・・。
- ・ 入浴時のマスクができない点
- ・ マスクの着用の理由が理解できない利用者への対応
- ・ 家族から感染した人が出たが、サービスの重複があり職員や利用者が濃厚接触者になってしまい、業務負担が増大した。
- ・ 陽性者が出た場合のゾーニングやシフト、ケア内容の変更等のシミュレーションを行っている。
- ・ 同居する家族等が感染した場合の対応
- ・ 障害児者と同居する家族等が感染した場合、介助者不在時の対応をどうするか。
(家族からの不安の声あり)
- ・ 個々の状況に応じ、暮らしを支える医療・介護が受けられる環境の確保をどうするか。
→障がい者の親・家族が新型コロナに感染したら、本人はどうになってしまうのか
→どのサービスにもつながっていない障がい者(単身生活者、家族同居者)を見ている方(家族等)が新型コロナに感染(罹患)した場合の対応をどうするか
- ・ 障害児者が感染した場合の対応
- ・ 障害児者が感染した場合は、症状に応じて速やかに入院や宿泊施設等で治療や介護を受けられる環境の確保をどうするか。(移動方法の確保も併せて)
- ・ 障がい者本人が新型コロナに感染したら、治療も含めてどうになってしまうのか。
- ・ 何もサービスを利用していない障がい者が自宅待機となった場合、支援体制をどうするか。
- ・ ヘルパー事業所・短期入所事業所等がサービス提供中止となった場合の対応
- ・ 緊急時を想定し、単身生活者の場合、生命にかかわってくる場合、病院等との連携できるのか。
- ・ 介護者不在の場合、短期入所・社会的入院で対応できるのか。
- ・ 就労継続支援・生活介護等の通所系サービスの利用制限(時差出勤、テレワーク等)をしている場合の対応

II. 児童福祉関係

【課題や問題点】

- ・ 課題：年齢の低い幼児・児童へのかかわり方
- ・ 問題点：おやつ時間、着替えの時間にマスクを外してしまう
- ・ 他の事業所のお話を聞くと情報が混沌としている気がする。
- ・ 未就学児と小学生と一緒に使う玩具も多く、密にもなりやすい。
- ・ 家庭によって衛生面の考え方が違うため、通所する際のマスク着用や体調管理の徹底について統一することが難しいと感じる。
- ・ 原則開所、休業した場合の補償も無いなど、無理難題を押し付けるのであれば、飛沫防止パネルや感染防止対策に必要な物品など、国が率先して全事業所に必要数を配付するなど行ってほしい。
- ・ 利用者との距離をどのように保つか、感染症対策としての除菌などの経費をどのように捻出するか、利用

者や見学者などが安心して来所して頂けるような対策をどこまでするべきか。

- ・ 事業所のスペース上、距離をとる結果 個別活動になってしまう点。
- ・ 換気、衛生に手数と時間がかかる点。
- ・ 一つ一つ気をつけていくしかないが、大きい集団での飲食を伴う会や保護者会ができないので、今後 web などの開催を学んでいかないと・・・と思っています。

Ⅲ. 教育関係

【課題や問題点】

- ・ 外部との連携や新規で本校に就学を希望する子どもたちへの対応が通常の形での対応とならない状況が続いている。
- ・ 本校の生徒は感染症に弱いため、外部の方とのかかわりができなく、保護者も面会ができていない状況のため、生徒も保護者もストレスをためてしまっている。

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【課題や問題点】

- ・ 利用者よりニーズは増えるが人員の補充がままならず、今後の業務への不安もぬぐえない。

西区地域部会 アンケート結果

③ 【特に困ったことや課題についての改善方法】

I. 障害福祉関係

【特に困ったことや課題についての改善方法】

- ・1時間おきに換気の入れ替えで現在は対応している状況
- ・取引業者での在庫不足もあり、入手の目途が立たなかった。保護者様に相談し、外国との貿易を行っている方から入手することができた。
- ・消毒、衛生管理を徹底したうえでマイクロバスに乘車し、窓を開け社内の換気行いながらドライブを行った。車内でお弁当、おやつを食べ旅行気分に入った。
- ・透明のフェースシールドやゴーグルの着用など、気にならない物で代用可能な物を使用。
- ・新型コロナウイルス飛散防止に努め、入居者が一緒に食事を摂れるように改善。
- ・通勤時間を公共交通機関のラッシュの時間帯を避けての通勤に切り替えた。
- ・事業所でのパーテンションの設置。
- ・ソーシャルディスタンスを分かりやすく立つ位置などに印をつけた。
- ・アルコール消毒よりも流水での手洗いをこまめに実施。ハンドクリーム塗布。
- ・アルコール消毒
1人1人にお渡ししている除菌ボトルにテプラで氏名を貼ることと、世話人も食事をお届けする際にそのボトルを使うことで、常に使用するという認識が生まれ、使用してくれるようになりました。また、会社でマスク等々を大量に購入し、入居者さんに配っています。
- ・就労支援
グループホームの職員が可能な限り、送迎させていただきました。(すでに退去されています。)
- ・生活相談室の方のモニタリング
この時期に、万が一対策として、ホーム内には極力人を入れたくない状況なので可能な限り、ZOOM等のウェブ対応も取り入れていただきたいと思います。うちは、入居者さんの希望もあり、外部(相談室)のモニタリングも同席することが多いので、そのあたりのサポートは万全です。ですが実際に顔を見るからわかることもあるため、難しいところです。
- ・買い物支援
不要不急の買い物を控えるため、以前のようにゆっくり自分のペースで選びながら買い物をするという、長時間店舗内の滞在を防ぐため、常に使用している生活用品等は、世話人が買ってくる、ということがあります。ですが、これを続けることになる場合、自立支援の妨げになってくるのではないかと不安もあります。
- ・事業所内を簡易間仕切りで区分けして、個室に近い形をとった。
- ・情報の提供や機会を設けて全体に注意喚起、個別には都度の声掛けなどを行う。
- ・外出の頻度、時間帯、行き先、時間など細かい点で話しをし、協力を求める。
- ・コロナについての勉強会をし、利用者に手話で分かりやすく説明した。
- ・理解しやすいように絵をかき、ポスターを作成した。

- ・ 毎日、体操を取り入れた。
- ・ コロナ禍で需要が高まる事業への積極営業。
- ・ 足が遠のいている利用者さんに対しては保護者の方も含め毎日電話で様子を伺い、状況により家庭訪問をさせて頂いています。変わらず通所してくださっている利用者さんにはとにかく不安を与えぬ様に接する事を心掛け、また、当事業所で毎月発行している「ライズ通信」にて外出等の注意喚起を行っています。
- ・ 対応の事例集などを共有
- ・ オンライン勉強会を前提した勉強会準備
- ・ 入口に担当職員をつける
- ・ 予備のマスクを用意しておく
- ・ 色々な伝手を使ったり、自分たちで情報を集めたりして、資材の確保を行った。
- ・ 公共交通機関をひかえた。外出を中止した。
- ・ 帰省者はすべて送迎した。
- ・ 換気、手洗い、消毒マスクの徹底
- ・ 家庭での対応については、市内の感染状況の変化に合わせて、随時おたよりにて事業所としての方針を伝えて、感染予防意識の啓発や協力への理解を促した。
- ・ 発熱や濃厚接触者との関わりが生じた際の対応について、起こりうるケースごとに標準的な基準を設定した。
- ・ 事業所間で、話し合いの機会を重ねて、要請される行動様式について合意を図った。
- ・ なかなか集団で集まれないなか、作業や昼食はどうしても限られたスペースでみんなが集まっていたのを、空きスペースを使い分散するようにし、仕切りを設けて席を離して固定したこと。
- ・ 油断したり、慣れてしまわないように日ごろから細かなしつこいくらいの呼びかけを続けている。
- ・ 補助金を利用し敷地内の建物すべてに無線LANを構築した。それにより①については、利用者居室内でもインターネットができるようになりAmazonで買い物をしたり、オンライン旅行を楽しんでいる。②も職員会議を一堂に会さずにオンラインでできるようになった。
更に①については、これまで出前で食事を食べることがあまりなかったが、外出できない分デリバリーでクリスマス食事会や誕生会、還暦のお祝いをしている。大変好評だった。
- ・ 少人数での行動にしている。密にならないように作業時間は人数を考え工夫している。
- ・ 衛生用品や防護具について、法人全体で業者と交渉したり、新しい業者と契約したりして確保に努めた。
- ・ 法人グループ内の病院で発熱外来を開設したことにより、早ければ当日にPCR検査の結果を得ることができるようになった。
- ・ 情報発信や相談を行うことができる相談窓口が必要
障がい児に関しての相談対応窓口は？→区役所、児童相談所、保健センター？
障がい者に関しての相談対応窓口は？→区役所、委託相談支援事業所？

Ⅱ. 児童福祉関係

【特に困ったことや課題についての改善方法】

- ・ 困ったことについての改善：職員はもちろん、5歳以上の児童にはマスク着用を義務化。5歳以下の幼児についても任意とし出来るだけマスク着用を促した。

- ・問題点への改善：おやつ・着替えの時間を割愛し活動時間を短縮した。
- ・日常の療育に外出分の費用を回し、例年と違った療育プログラムを導入してみた。
- ・自由遊びで選択式にすることで玩具を限定した。
- ・各家庭へ、利用時のマスクの着用をお願いをするプリントを配ったり、おたよりの中にマスク着用をお願いを書き、保護者から児童にも伝えてもらうようにした。
- ・通所時の感染予防についてスタッフ間で改めて確認する。
緊急事態宣言中は午前と午後の2部制で療育を行い、密にならないようにする。
- ・行事は従来は一斉に行っていたものも、分散して実施、または中止としました。
来所基準などは都度おたよりに載せ家庭に周知、常に健康状態の把握を家庭から行っていただけるよう、注意喚起をしています。また、制作や調理など物の共有をする活動は物を共有しない内容を検討し実施することもありました。
- ・火を使用しないでポップコーンマシーンを使用し若干だが気持ちを盛り上げた。
- ・「おうち時間用」と名付けられた高さ2メートル140センチ四方のテントを購入し、交代で過ごしている。
音まで遮断する機能はないが、暗く囲まれている事で、落ち着いている様子が見受けられる（開閉自由の窓が4か所付いてる）
- ・経費をかけて除菌や仕切りなどの対策。職員と利用者の体調管理（家族含め）
- ・年齢に応じて、口頭ではなく書字でやりとりを交わす。
- ・おやつ：同じ方向を向いて実施。クッキング：当面、中止。
- ・保護者に来てもらう行事ができなかったので、You Tube 配信を行った。
- ・動画撮影し、DVDにして各家庭にお渡しした。

Ⅲ. 教育関係

【特に困ったことや課題についての改善方法】

- ・可能な場合は、オンラインを活用したりリモートによる対応を準備。
- ・生徒が外に出られないため、教員が撮った映像を見せたり、Zoomのシステムを活用したりして、交流や学習を行っている。今後もいろいろな方法を検討し、地域の方とかかわりがもてるような学習に取り組んでいきたい。

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【特に困ったことや課題についての改善方法】

- ・募集広告をだす。

西区地域部会 アンケート結果

④ 【特に困ったことや課題についての対応策】

I. 障害福祉関係

【特に困ったことや課題についての対応策】

- ・ ソーシャルディスタンスをとったテーブル配置
- ・ 各テーブルにアクリル板を装着した。
- ・ 空気清浄機と加湿器の使用。
- ・ 在宅ワーク中、話を聞く時間を多めに取った。(特に一人暮らしの方)
- ・ 在宅ワークを通所に切り替えた。
- ・ 衛生指導は分かりやすく書面に書いて説明、実践を交えて説明を何度も繰り返し行った。
- ・ 職員にはフェイスシールドを配布した。
- ・ 自宅内の衛生状況により、訪問時の制服を購入した。
- ・ 来客後は室内消毒と換気の徹底。
- ・ 全体周知と注意喚起、個別対応
- ・ パーテーションを制作
- ・ 朝の会などで、コロナやコロナ予防の新しい情報があれば、情報提供した。
- ・ 個人で出来る創作活動を増やした。
- ・ 行事は密を避けるため、曜日ごとに回数を増やして事業所内で行った。
- ・ 入手困難な衛生用品については、代替品を検討し調達。
- ・ 繰り返しコロナ感染の恐ろしさを伝える
- ・ 世間での感染状況などに応じて、その都度判断したり対応するしかなかった。
- ・ 自分達だけで気を付けるのではなく、持ち込まないようにと外部との接点では特に気を付けていた。
- ・ 外出時と室内のマスク交換を実施。体調確認を施設内、家族にも確認し行っている。外部からの訪問者も体調角煮にしている。
- ・ 訪問時、マスクを着けていない利用者には、声掛けや不織布マスクを提供し着けてもらった。
外してしまった際も都度声掛けをした。
- ・ 来所面談は、電話での予約時に来所人数を確認している。
- ・ 事業所訪問時、コロナ禍や対策の工夫について話題にしてみる。
- ・ 利用者でコロナ感染が疑われる症状がある者・PCR検査を受けた者等については、電話で状況確認時等に外出自粛の声掛けをしている。
- ・ 障がい児者、家族等への個別対応
- ・ 電話対応を頻回に行い、家族の様子確認や本人の状態把握をしている。
- ・ 介護者の有無によって対応が変わるが、利用者の生活能力や環境等を再アセスメントし、家族等の協力を得ながら、訪問系サービス等の利用を検討している。
- ・ 委託相談支援事業所(住所地)が相談窓口となり対応?→現実的?
- ・ 委託相談支援事業所が連携して情報共有し動かざるを得ないが、緊急時の応援体制を構築。

- ・円滑な障害福祉サービス等が確保されるよう、感染者の発生した事業所や代替施設等に感染発生時を想定した協力体制づくり。(応援職員を派遣する仕組みの必要性)

Ⅱ. 児童福祉関係

【特に困ったことや課題についての対応策】

- ・事前にメール等で保護者へ周知。協力をお願いし時間短縮による療育に切り替えた。
- ・引き続き油断しないでプライベートの時間も、自覚するように徹底して指導している。
- ・未就学児と小学生の時間を分けて密の状態をなくした。また、その間で消毒も徹底できた。
- ・書面で通所時のマスク着用のお願など感染対策を簡潔に伝える。
- ・風邪症状がある児童の保護者から連絡をもらった時は、お休みをしていただくことをお願いする。
- ・マスクの着用、手洗いの徹底、定期的な室内換気などを今まで以上に意識する。
- ・通所時の検温を実施。
- ・代表の講習による感染症の知識を職員間で周知徹底。その知識に伴う除菌作業や支援方法の変更。
- ・時間帯をずらして、密を避けながら他者の活動の様子がわかるよう隣室で取り組むようにしている。
- ・児童の活動時間を、従来より短くして環境整備にまわしている。
- ・今後このようなサービスも視野に入れていくとしたら、機器等も整えたい。

Ⅲ. 教育関係

【特に困ったことや課題についての対応策】

なし

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【特に困ったことや課題についての対応策】

なし

西区地域部会 アンケート結果

⑤ 【部会活動で取り上げて欲しいこと】

I. 障害福祉関係

【部会活動で取り上げて欲しいこと】

- ・加湿器のレンタル等あれば財政的に助かります。(職員・利用者へのマスク・手洗いグッズ、薄手の手袋・消毒液など事業所で用意はしているが、いつまでも財政面を考えると細かいところまで対応したいが厳しい状況です)
- ・災害時、新型コロナウイルス感染症下での情報共有。在宅ワークについての取り組み例など。
- ・利用者にはどこまで感染防止対策を求めているのか知りたい。その他、対応で困っている事など。
民間での感染症予防対策研修などをウェブ研修で受講し、社内で周知徹底し対策を講じておりますが、上記に記載いたしました不安等の改善につながるような日常での対策を教えてくださいたいです。あくまでも絶対はありませんし、あくまでも参考程度ですが、「モニタリングは双方気にしないなら直接会っても構わない」や「この時期は自立支援よりも感染拡大防止対応を優先する」などある程度、現場に合わせた「感染防止対策を講じながら優先・考え・意識すべきメンタル・行動指針」が知りたいです。
- ・気持ちの不安に対しては対応が事業所では出来ない。全員で神経質にならず、ある程度は大丈夫、と思える企画を。
- ・他の事業所様で利用者さんを受入れする際に特に意識している事等をご教授していただきたく存じます。
- ・他の（GH）事業所ではどのように対応しているのか、知りたい。
- ・事業所外での活動についての各事業所のガイドラインなど
- ・区内での福祉事業所等での発生事例について
- ・高齢者、障がい児者の支援には、重複するサービスもあり、それぞれの分野において、同じような課題を持っていることから、新型コロナウイルス感染予防を念頭に置いた障がい者・高齢者支援における課題を中心に協議し、解決策の検討を行うため、様々な分野（医療・保健・教育・福祉）の専門職チームによるPT（プロジェクトチーム）」の設置。

II. 児童福祉関係

【部会活動で取り上げて欲しいこと】

- ・障害福祉サービスに関しての補助金について。
- ・この状況下でも可能な《こんな工夫で事業運営してます》紙面回覧
- ・WEBの操作や、ズームなどを行うための研修会などがあればうれしいです。

III. 教育関係

【部会活動で取り上げて欲しいこと】

なし

IV. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【部会活動で取り上げて欲しいこと】

- ・ 加算の増加

西区地域部会 アンケート結果

⑥ 【今後の部会の活動内容】

I. 障害福祉関係

【今後の部会の活動内容】

- ・ ICT 化
- ・ あまり連絡がないので、西部会があるときは知らせてほしい。
- ・ 他事業所との情報交換。(特にコロナ対策について)
- ・ コロナ禍での各事業所での対応状況を共有。利用者の生活状況やサービスの利用状況などの情報交換。
- ・ 年中コロナではなく、あえて別な話題や取り組みを行うことも必要だと思います。
- ・ 少し自然災害についての対策や準備などの認識が薄れている傾向にもあるので、自然災害対策のその後について取り上げてみる。
- ・ 上記、取り上げていただきたいことに記載した、情報提供及びウェブ研修
- ・ 屋外でのイベント開催
- ・ コロナ対策の現状など各事業所との情報交換をする場が欲しいです(手話通訳付き)
- ・ 実際にコロナが発生した事業所からの経験とアドバイスをお聞きしたいです。
問題をみんなで話し合う。(実例、仮定問わず。) 答えを出す必要は無く、とにかく皆様から意見をいただくのを趣旨とし、実際の業務に活かし適切なサービス提供につなげる。
- ・ オンラインでの交流会、勉強会の実施、コロナ対策や対応の事例共有
- ・ 知的障害者にも分かりやすい、コロナ感染症についてのビデオや動画が欲しい
- ・ 他事業所でどのような対策を行っているのか情報がないので、有効な対策があれば教えてもらいたい
- ・ 他事業所の対応方法等が知りたい。
- ・ 実際にコロナ以外の課題もあるが、コロナ禍のなかで実際に集まることは難しいと思うので、現在のアンケートなどで実情をお互いに知ったり、情報交換をしていくのが今出来ることではないかと…
- ・ 今回のアンケートを基にしながら、情報交換、情報共有ができると思います。
- ・ 随時事業所の困りごとをあげたり、アドバイスができるようなもの(ヤフー知恵袋のようなもの)ができると良いのかと思います。
- ・ 絵画の展示会、さをり織りなどの作品展示、販売の実施
- ・ ウィズコロナ時代において、年間を通して、「(仮)ウィズコロナ時代の障害福祉サービスや各分野の現場で起きている現状(問題)と課題」をテーマに研修会の開催。
- ・ 新型コロナウイルス感染症発生時のBCPや地域連携のあり方(西区内事業所間の協力体制等)に関する情報共有・情報交換会の開催。
- ・ 個別事例に関する情報交換会の開催。

II. 児童福祉関係

【今後の部会の活動内容】

- ・ 取り組みなどオンラインで参加したい。

- ・既定のフォームに、近況（文、写真）掲載。紙面にして、配布。
- ・WEBでの座談会など、テーマを決めて、申し込みたい内容の時に参加できたら、職場から参加できていかと思います。

Ⅲ. 教育関係

【今後の部会の活動内容】

- ・西区における特別支援の幼児・児童生徒の支援の状況等について

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【今後の部会の活動内容】

なし

西区地域部会 アンケート結果

⑦ 【今後の部会の開催方法】

I. 障害福祉関係

【今後の部会の開催方法】

- ・ リモート
- ・ オンラインでの開催もしくは一定の距離を保っての活動であれば参加したいです。
- ・ 集まって活動する場合は、室内の面積に対して参加者の人数制限を設ける形で開催する。
- ・ ズーム等を活用しオンラインによる部会活動（意見交換の他、講師による研修も可能ではないか）
- ・ ウェブ
 - 「Vimeo」を使えばアカウント登録もインストールも不要
 - 「YouTube」のライブ配信
- ZOOM はアカウントが必要ですし、操作方法も開催側、ギャラリー側もそれぞれ必要ですが、上記2つなら開催側だけの操作なのでお勧めします。
- ※どの媒体でもアーカイブで残していただくと社内研修にも使用できます。
- ・ 協議会で感染症対策をしっかりと行って欲しい
- ・ オンライン（字幕か手話通訳付き）
- ・ 当事業所はオンラインアプリの環境が整っていないので偉そうな事は言えませんが、同様な環境にある事業者様にも参加できるようにLINEや他のSNSを活用したグループワークというのはいかがでしょうか。
- ・ オンライン
- ・ 事例集はメールでも可
- ・ 動画配信をしてほしい
- ・ 資料の配布などによる情報提供。
- ・ ワクチンの接種も始まるかと思いますが、まだしばらくは参集形式の開催は難しいと思います。
メールによる開催になるのかと思います。
- ・ 高齢者施設や、駅のホーム 通路、ちえりあなどで展示
- ・ 当面はオンライン会議でお願いしたいと思います。
- ・ PT（医療・介護、高齢者、障害福祉サービス、学校等のグループ分けによる役割分担）設置による小人数単位での組織的活動も視野に入れ、開催方法の検討。

II. 児童福祉関係

【今後の部会の開催方法】

- ・ オンラインでの開催だと助かります。
- ・ この状況が続くとしたら、WEBになるのかなと思います。

Ⅲ. 教育関係

【今後の部会の開催方法】

- ・本校では、現在も継続して感染症対策を強化した形での生活を送っていることから、状況を見極め、場合によってはリモート開催での活動としていただけると助かります。
- ・集合形式は難しいと思いますので、Zoomでの会議で行ってはどうかと考えます。

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【今後の部会の開催方法】

なし

西区地域部会 アンケート結果

⑧ 【その他】

I. 障害福祉関係

【その他】

- ・ 就労継続 A 型(雇用型)の場合、セルフプランの利用者が多く、紹介窓口もハローワークなので、部会活動のメリットが少ない。
- ・ マーケットへの参加
- ・ 各事業所の新型コロナ禍でのユニークな取組の紹介
- ・ ズーム等の活用によるリレー方式で、各事業所で行っている地域活動や感染予防対策のユニークな取組、作業所の製品の販売等、利用者を巻き込んだ企画の開催。
→利用者に楽しみや張り合いを感じてもらえる企画(話題づくり)。

II. 児童福祉関係

【その他】

- ・ 多くは望みません。健康維持+明るい日常を取り戻したいのみです。

III. 教育関係

【その他】

なし

IV. その他(ホームヘルプサービス介護・障害)

【その他】

なし

西区地域部会 アンケート結果

⑨ 【その他事業所で行っているコロナ対策内容】

I. 障害福祉関係

【その他事業所で行っているコロナ対策内容】

- ・最初の緊急事態の際に在宅支援を行い、そのノウハウがあったのですぐに在宅支援に切り替えることが出来た。
- ・他の事業所との連絡をこまめに取り合っているので、情報がわかりやすい。
- ・就労継続支援B型は分散通所を実施。
- ・衛生面について書面や実践を交え指導を全員が出来たこと。
- ・出勤時に検温、マスクの装着と手指消毒、職員デスクや面談テーブルにアクリルボードを設置。
- ・時差出勤。
- ・事務所内の換気、消毒作業。
- ・職員・利用者共に、職務・利用前の体温測定、職務・利用時のマスク着用、手指消毒の徹底を行っています。
- ・一般的な感染症対策。マスク、手洗い、ハンカチ所持、消毒を毎日実施
- ・次亜塩素酸水生成機器を導入し、感染対策の強化を図った。
- ・昼食提供を取りやめ、開所時間を短くした。
- ・利用者、職員の日々の健康観察（検温等）
- ・共同のタオルからペーパータオルに変えた。
- ・活動で使った物・テーブル、イス等すべて消毒をしている。
- ・来客・訪問者の記録
- ・コロナが発生した場合の対応マニュアルを作成した。
- ・不織布マスク常着、手指消毒の徹底、施設内消毒作業（毎日）
- ・外出制限。手洗いうがい。マスクの着用など
- ・消毒、換気、マスク、検温（朝、夕）の徹底
- ・GHの食事時、パーテーションの購入
- ・現在、歯磨き介助のあり方について、感染対策をより重視した方法への変更を図っているところである。
- ・利用者、ご家族、関係部署への感染予防の協力を頼んでいる。施設での衛生管理を徹底し、マスクフェースシールド、日に数回の消毒など徹底している。分散して作業してもらっている。
- ・従来より来訪者に対しては、感染予防対策（通年）として手洗いを励行していたため、入室時の手洗い・消毒はスムーズにできている。
- ・相談者には、事前に電話で相談内容を聴き取り、来所時の対面による面談時間の短縮化を図っている。

Ⅱ. 児童福祉関係

【その他事業所で行っているコロナ対策内容】

- ・療育時間の短縮
- ・消毒・清掃の強化
- ・空気清浄機を導入した。
- ・加湿器で湿度を保つようにしている。
- ・定期的な換気を徹底
- ・手洗いの徹底
- ・喚起、手洗い、消毒。
- ・おやつ時のマスク保管用専用カゴの使用。
- ・空気清浄機の導入。活動前後の検温
- ・できることをやっていくしかないので、できる限りの消毒や手洗いに努めています。施設から感染が出ていないのが幸いですが、お子さんや家族にも関わっていくので、今後も職員一人ひとりの意識の継続が大事かと思えます。

Ⅲ. 教育関係

【その他事業所で行っているコロナ対策内容】

- ・校舎が新しくなったことにより、空調設備による強制換気が可能となっている。

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【その他事業所で行っているコロナ対策内容】

- ・そもそも訪問での居宅サービスの事業所が少なく交流の機会もないため、情報はあまり入ってこない。

西区地域部会 アンケート結果

⑩ 【その他良かった、助かったこと】

I. 障害福祉関係

【その他良かった、助かったこと】

- ・通所の人数も少なくすることで、密を回避することが出来ている。
- ・衛生面の意識が向上したこと。
- ・在宅ワークを経験したことで、通所出来ることに喜びを実感していたこと。
- ・お互いに衛生面やソーシャルディスタンスについての声掛けを行なってくれるようになった。
- ・感染防止対策を講じることで精神的にも職員の安心感につながった。
- ・入居者さんにも徹底する方法は何かなど、世話人さんたちが一丸となって、感染防止対策を考え試し取り組むことでスタッフ同士の会話も増え、絆が深まった。
- ・感染拡大対策について、入居者さんに対する声掛けも増え、コロナで自粛が続いても閉鎖的にならず、笑顔のあふれる支援を
- ・厚生労働省や札幌市や会員等より、不織布マスクや手指消毒用アルコールの配布や寄付があり、大変助かりました。
- ・トイレ、洗面所、浴室など感染場所となり得る場所の衛生対策が強化されたこと。また日常の清掃や、加湿にも利用し、感染対策をより強化できていること。
- ・札幌市から手指消毒液やマスクの支給があった。
- ・コロナ対策で地域の小学校より、消毒業務に関する依頼が多数寄せられた。
- ・活動の制限や行事の中止などについて、保護者の理解が得られている点。
予防対策についての協力にも快く応じてもらえており感謝している。
- ・施設への支援金は実際に、みんなにマスクを配布したりコロナ対策に有効に使うことが出来た。
- ・自施設からの感染例がないこと（家族経由はあり）
- ・相談者の来所時の手洗いは、通年で標準化（習慣化）できていたため、戸惑いなく励行できている。

II. 児童福祉関係

【その他良かった、助かったこと】

- ・事前の説明により、保護者様が協力的であったこと
- ・光触媒のコーティング施工を導入した。
- ・札幌市福祉課から対応についての連絡や情報が密に来ていたこと。
- ・不織布マスクが送られてきたこと（助かったこと）
- ・アルコール消毒液が送られてきたこと（助かったこと）
- ・換気や手洗いをすることが日常的になり、全体的に体調を崩すスタッフや児童が減少した。
- ・直接、机の上に置かない事で衛生面を強化出来た。
- ・風邪ひき少ない。
- ・国からの援助（助成金）

- ・ 移動せずに参加できる研修会や会議が増えた。

Ⅲ. 教育関係

【その他良かった、助かったこと】

なし

Ⅳ. その他（ホームヘルプサービス介護・障害）

【その他良かった、助かったこと】

なし